



# 甲虫ニュース COLEOPTERISTS' NEWS

No. 86

October 1989

## 日本産歩行虫ノート V:

### 琉球の石垣島で発見された日本新記録のマルガタアオゴミムシ (新称)\*

笠原 須磨生

先ごろのこと、森田誠司氏から、見たことのないアオゴミムシがあるので調べてみないかと1頭の標本を託された。それは、1986年の冬に、阿部光典氏が琉球の石垣島で採集したもので、一見、ムナビロアオゴミムシ *Chlaenius sericimicans* CHAUDOIR にやや似ているが、体にまるみがあって、より幅広く、上唇の前縁が強く弯入していて、明らかに日本ではこれまで知られていない種であった。

一応、CHAUDOIR (1876) の検索表をあたってみると、ジャワ原産の *C. amplipennis* CHAUDOIR に該当するが、この種は石垣島産のものより小さく、色彩も異なり、別種である。そこで、*amplipennis* の近縁種について文献をいろいろ調べたところ、カンボジアのブノンベンとベトナムのロンシャンで得られた4頭の標本に基づいて、1920年に ANDREWES が

記載した *C. rotundus* の特徴によく一致することがわかった。その基準標本は、ブリュッセルの自然史博物館にあるが、ANDREWES のコレクションを所蔵するロンドンの大英博物館(自然史)にも本種の標本があるかと思い、今夏、同博物館を訪ねられた柴田泰利氏に調査をお願いした。さいわい、一頭の cotype が保存されていて、石垣島産の図(図2)や特徴と照合した結果、邦産種が *C. rotundus* に違いがないことが判明した。そこで、ここに本種の日本新記録の報告をかねて、図示再記載する次第である。

貴重な標本を検査する機会を与えてくださった阿部光典、森田誠司両氏、基準標本の調査と撮影の労を賜った柴田泰利氏ならびに文献のお世話になった松本俊信氏に心から謝意を表したい。

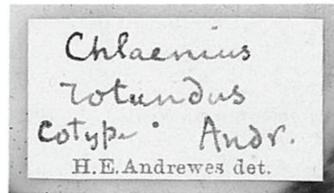


図1. *Chlaenius rotundus* ANDREWES: cotype (♀) と添付ラベル。大英博物館(自然史)蔵。柴田泰利氏撮影。

\* KASAHARA, S. Notes on Japanese ground beetles, V: Occurrence of *Chlaenius rotundus* ANDREWES in the Ryukyus, Japan.

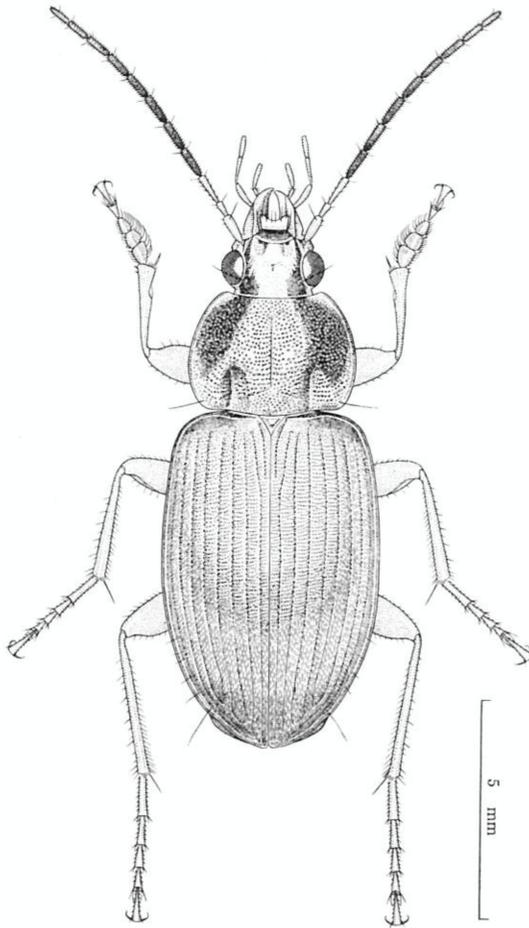


図 2. *Chlaenius rotundus* ANDREWES, ♂, 沖縄県石垣島産.

***Chlaenius rotundus* ANDREWES**

マルガタアオゴミムシ (新称)

ANDREWES, 1920, p. 24 (Cambodge: Pnomh Penh, Cochinchine: Long Xuyen); 1930, p. 104; 1933, p. 336; CSIKI, 1931, p. 971.

記載. 雄. 体長 12.6 mm, 体幅 5.0 mm. 頭部と前胸背板は緑銅色, 後者はやや青みをおびる; 上翅は黒色; 大あごと上唇は暗赤褐色; 口ひげ, 触角の基部 2 節と脚は黄褐色, 触角第 3 節はやや暗色, 第 4 節から先は暗色; 体下面は黒色.

頭部は適度に中高, 光沢があり, 前頭部では細かく, 後頭部では密に強く点刻される. 眼上部には縦しわがあり, 頭頂に点刻された浅く小さい凹陷がある; 複眼は大きく, 突出し, 半球状; こめかみは, きわめて短かく, 斜め; 大あごは比較的長く, やや単直; 上唇の前縁は顕著に穹入する (図 3); 前頭界線は, やや深い; 前頭溝は短かいが, やや深く,

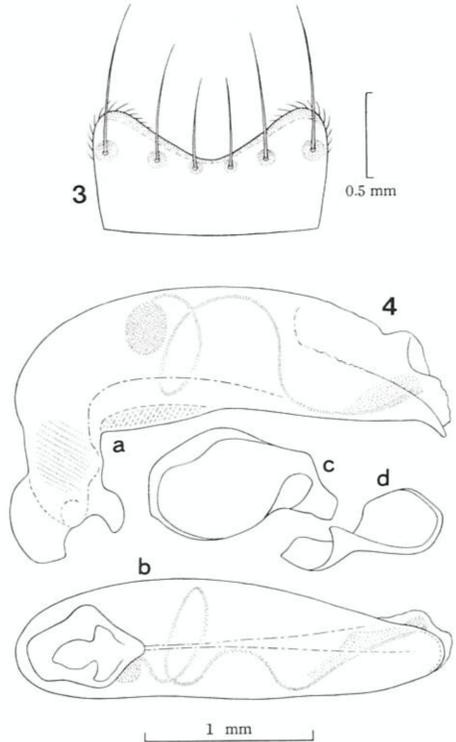


図 3-4. *Chlaenius rotundus* ANDREWES, 沖縄県石垣島産♂の上唇と交尾器. —3. 上唇; 4. 交尾器 (a, 陰茎左側面; b, 同下面; c, 左側片; d, 右側片).

しわ状に強く点刻される; 口ひげの末端節は細長く, 少し拡がり, 先端は切断状; 触角は細長く, 上翅の基部 1/3 に達すし, 第 4 節から細毛を密生し, 第 3 節にも疎毛がある. 柄節と第 2-5 節の長さのおよその比は, 1:0.5:1.1:1.1:1.1.

前胸背板は横位, 中高, 中央より後方でもっとも幅広く, 頭部の約 1.6 倍幅, 長さの約 1.5 倍幅; 側縁はほそく縁取られ, 前方へ弧状に強く狭まる; 後角部は鈍く, 広くまるい; 表面は密に強く点刻され, 基半部では, ややしわ状, 黄色毛を生ずる; 中央條は深い; 基部凹陷は, やや深く, 密に点刻され, 底部は短かく線状に印圧されるが基縁には達しない.

上翅は倒卵型, 中高, 中央より前方でもっとも幅広く, 前胸背板の約 1.3 倍幅, 2.9 倍長, 幅の約 1.5 倍長; 肩は広くまるい; 條溝は, やや深く, 点刻される; 間室はひらたく, 顆粒状の密な点刻が, やや横列して, やすり状となり, 黄色毛が密生する; 上翅側片は, 肩部にまばらで弱い点刻があるが, ほぼ滑沢, 後方は点刻される.

体下面は, おおむね点刻され, 黄色毛を生ずる; 前胸腹板突起は強く点刻され, 縁取られない; 腹部腹板の中央部の細点刻は, かき傷状. 陰茎は太く,

基部 1/4 で直角に屈曲し、屈曲部から前方へ、下面中央が強く竜骨状に隆起する。先端はまるく、下方へ反る。内袋に、円形の骨片から糸状の交尾片が螺旋状に前方へ伸び、先端部は板状に拡がる；左側片は幅広く、先端は、やや切断状；右側片も比較的幅広く、先端はまるい。

検視標本、1♂、沖縄県石垣島白保、22. xii. 1986、阿部光典採集。

分布。日本（琉球：石垣島）、カンボジア、ベトナム、スマトラ。

備考。ANDREWES は *C. rotundus* の記載にあたって *C. amplipennis* と比較し、同時に後者の var. *niasanus* をスマトラから記載した (1920, pp. 24-25)。*amplipennis* は *rotundus* より小型で (11.5 mm)、頭部に紫色の金属光沢があり、前胸背板は、はがね様の暗青色、上翅は黒色で側縁が青色をおびる。var. *niasanus* は、体形は同じで色彩のみ異なり、緑色をおびる。なお、スマトラには *rotundus* も分布する (ANDREWES, 1933, p. 336)。

*C. rotundus* の亜属については明らかでない。上唇や陰茎の形態は特異だが、口ひげの形態や陰茎の内部構造からみて、HABU (1987) によるグループングでは、*C. sericimicans* などを含む *variicornis-*

group (*loc. cit.*, pp. 4-7, 21-22) に近縁のものと考えられる。

阿部光典氏の私信によると、石垣島産の個体は、池沼の岸で、ゲンゴロウ類採集のかたわら得られたとのことである。

#### 参考文献

- ANDREWES, H. E., 1920. Notes sur les carabiques orientaux.—1. *Annl. Soc. ent. Berg.*, 60: 22-28.  
 ———— 1930. Catalogue of Indian Insects. Part 18—Carabidae. xxii+389 pp. Government of India. Calcutta.  
 ———— 1933. A Catalogue of the Carabidae of Sumatra. *Tijdschr. Ent.*, 76: 319-382.  
 ———— 1941. Papers on Oriental Carabidae.—xxxvii. *Annl. Mag. nat. Hist.*, (11), 7: 307-317.  
 CHAUDOIR, M. DE, 1876. Monographie des Chléniens. *Annl. Mus. civ. Stor. nat. Genova*, 8: 1-315.  
 CSIKI, E., 1931. Carabidae: Harpalinae V. In JUNK, W., & S. SCHENKLING (eds.), *Coleopterorum Catalogus*, pars 115 (pp. 739-1022). W. Junk, Berlin.  
 HABU, A., 1987. Classification of the Callistini of Japan (Coleoptera, Carabidae). *Ent. Rev. Japan*, 42: 1-36.  
 (千葉県船橋市)

#### ○水面の裏側を歩行するマルガムシ

1988年5月3日、ヒメギフチョウの生態写真をとる目的で青森県平賀町唐竹の山を訪れた。天気は薄曇で薄陽がさしたりくもったりという具合で肌寒く、写真の方はさっぱり駄目であったが、午前9時50分頃、思いがけない観察をすることができた。

林道を降りる途中、左側の側溝の水が板でせきとめられ、流れが緩やかになっているところに来た。水面の内側に何か黒っぽい甲虫が見えたので近付くと、ガムシの一種が腹部を上に向けて水面の裏側を歩いているのであった。ちょうどガラス板の上を歩いている甲虫を裏側から見ている様な錯覚におそわれた。写真にとりたいと思ったが光線の具合が悪く、反射を除くフィルターも持っていなかったので撮影はあきらめた。そのまま観察を続けたが、数10秒の後そのガムシが水面に出ている枯草にたどり着いたところで採集した。それはマルガムシ *Hydrocassiss lacustris* (SHARP) であった。

同様の習性のマメガムシ *Regimbartia attenuata* (FABRICIUS) についての観察が黒沢 (1987) によって、またタマガムシ *Arphips mater* SHARP についての観察\*が高橋 (1922) によってそれぞれ発表されているが、2種ともマルガムシとは属が異なっている。また今回のマルガムシの場合、完全に静止した水面ではないという点でも従来の記録と異なっている。

\*) タマガムシ以外にも「小形のガムシ類」が同じ行動を示すことを述べているが、具体的に種名があげられていない。

るのではないかと思う。

末筆ではありますが、古い文献の所在その他いろいろご教示いただいた黒沢良彦先生に深く感謝を申し上げます。

#### 参考文献

- 高橋良一 (1922). タマガムシの習性及体の背を下に向ける水棲昆虫。動物学雑誌, 34: 77-79.  
 黒沢良彦 (1987). マメガムシの奇習。甲虫ニュース, (75/76): 10.  
 ———— (1987). 再びマメガムシの奇習について。甲虫ニュース, (79/80): 6.  
 佐藤正孝ほか (1985). 原色日本甲虫図鑑 (II): ガムシ科, pls. 38-39, pp. 209-216.  
 (青森県弘前市, 松野武敏)

#### ◇報告◇

定例の9月例会を都合により10月1日(日)午後1:30から上野国立科学博物館4階実験講義室でおこなわれました。黒沢良彦氏による講話「カブトムシの属名について」があり、会務報告のあと、休憩をはさんで一人一話の座談に質疑応答がかわされました。和やかな雰囲気の中に午後5時散会。一部の人は紅い灯に吸い寄せられるかの如く、上野の巷へと消えてゆきました。参加者22名。

(幹事)

## 秋田県で発見したゲンゴロウモドキ

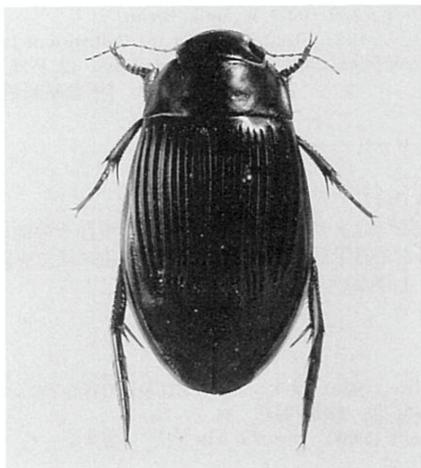
阿部 光 典

ゲンゴロウモドキの仲間(*Dytiscus*)は、ごく数年前まではきわめて稀なものとされていた。したがって標本も少なく「Aさんの所に3頭、B大学に2頭……」と全国の標本数が即座に数えられるほどであった。

ところが最近ではゲンゴロウに関心をもって調べる人が少しづつふえ、それとともなって「ゲンゴロウモドキが採れた」というニュースも時折耳にするようになった。しかし局地的分布を知りうるのみで、分布の全体像をつかめるまでにはいたっていない。記録の集積が望まれる理由がそこにある。

この稿では秋田県における記録を報告し、分布資料のひとつとしたい。

キタゲンゴロウモドキ *Dytiscus delictus* ZAITZEV; 9♂♂, 3♀♀, 秋田県由利郡仁賀保町冬師, 26-27. vii. 1989, 筆者採集。



築比地秀夫氏撮影

採集地点は鳥海山の北側の山麓。地図をみると広大な湿地があり、大小無数の沼が散在している。しかし現地に行ってみると一部では干拓がおこなわれ、乾燥化が進み、大部分はススキの原野になっている。沼も人の手が加えられ、立派な堤防をもつ大きな農業用溜池になっている。岸は大部分がスリ鉢状、草つきの場所をさがして、すくってみたがなにもいない。

ススキの原をあちこち走りまわり、やっと短径3m、長径8m、深さ50cmほどの水溜りをみつけた。のぞいてみると、ゆったりと泳いでいるゲンゴロウモドキの姿が目にとまった。はやる心を抑え、しばらく観察してみる。からだ全体が茶色だ。標本の色とはちがう。前胸背やエリトラを取りまく黄色部は目立たない。「テネラルかな」と思ったが、後に

採集してみても成熟個体であることがわかった。

その日は4頭採集。つぎの日も周辺をさがしたが水溜りがみつからず、仕方なく前日の池へもどったら、また8頭とれた。

さて、ここでの採集品を筆者は上記のように *D. delictus* と同定した。しかし、これについては問題がないわけではない。キタゲンゴロウモドキ(*delictus*)とエゾゲンゴロウモドキ(*czerskii*)に関しては中根先生と佐藤先生の間に見解の相異があるからである。アマチュアの小生は両先生の間でウロウロするばかりである。恐れ多いことであるが両先生の主張にもとづいて2種の分布域を表示してみる。

説	地域	
	本州東北部	北海道
佐藤説	<i>delictus</i> (キタ)	<i>czerskii</i> (エゾ)
中根説	<i>czerskii</i> (エゾ)?	<i>czerskii</i> (エゾ)

問題は本州東北部に分布しているものが、*delictus* か *czerskii* かという点である。

中根先生は「……本州北端の種はどれも *delictus* ではないらしい。むしろ……*czerskii* の記載に該当するように思われた」と断言をされた表現をしておられるが、さらに「佐藤(1985)の示した“*czerskii*”と“*delictus*”の♂交尾器側面図を見ると、陰茎先端の形が違っているが、この程度の相異では別種にできないように思われる」と一歩踏み込んだ意見も述べておられる。

佐藤先生に何うと「まちがいがなく *delictus*!」という答えが返ってくる。人一倍すなおな小生は「ハイ、わかりました」ということになる。

しかしながら ZAITZEV の記載では「*delictus* の体長は29-30mm」となっており、かなり小型のようである。このことが、どうしても小生の頭から離れない。タイプ標本を見るのが一番だと思うが、2種のタイプがどこにあるのかわからない。レニングラードだろうとは思いますが……。

ここでは、さしあたって“最新の図鑑(佐藤, 1985)にしたがって” *D. delictus* と同定し報告しておく。

なお、最近では、秋田県から岩手県にまたがる八幡平周辺でも、かなりの個体が採れているようである。

## 参考文献

- 中根猛彦(1986). 北日本のゲンゴロウ類同定についての覚え書, 東北の自然, (22): 16-19.  
 中根猛彦(1964). 甲虫学小誌, (3): 11-12.  
 佐藤正孝(1985). ゲンゴロウ科, 原色日本甲虫図鑑(II), 200-201.  
 青森県立郷土館(1986). 下北半島の自然, 86-87.

(東京都大田区)

## 栃木県北東部の水生食肉亜目甲虫に関する分布資料

大 桃 定 洋

筆者は最近、ツマキレオナガミズマシ *Orectochilus agilis* SHARP が栃木県大田原市蛇尾川の湧水地帯に多数生息することを見いだしたので報告する。なお、栃木県北東部の水生食肉亜目甲虫 Hydradephaga に関する分布資料はないようなので、これまで同地域での調査で記録した4科29種についても併せて報告する。

調査を実施するに当たり協力いただいた水戸昆虫研究会の市毛義勝、沼田 稔および疋田直之の各氏に深謝する。また、写真は白石昭彦氏（農水省草地試験場）に撮影していただいた。記して感謝する。なお、全ては筆者が採集し、コガシラミズムシ科については検索表<sup>1,2)</sup>に、他は最新の図鑑<sup>3)</sup>にそれぞれ従って同定した。

## I. コガシラミズムシ科 Haliplidae

1) コガシラミズムシ *Peltodytes intermedius* (SHARP)

3頭, 25. vi. 1988, 那須町高久甲; 1頭, 3. viii. 1988, 西那須野町千本松 (灯火); 1頭, 28. vii. 1989, 西那須野町千本松 (灯火)。

2) チビコガシラミズムシ *Haliplus japonicus* SHARP

5頭, 11. vi. 1988, 大田原市今泉・蛇尾川; 24頭, 2. iv. 1989, 同地。

3) クロホシコガシラミズムシ *Haliplus basinotatus latiusculus* NAKANE

1頭, 15. x. 1988, 矢板市玉田; 2頭, 15. x. 1988, 矢板市塩田; 1頭, 1. x. 1989, 那須町高久甲。

上翅基部の黒紋帯や中央後方紋が湾曲して横一列に並ぶことなどから本種と同定した。

## II. コツブゲンゴロウ科 Noteridae

1) コツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* SHARP

4頭, 25. vi. 1988, 那須町高久甲。

## III. ゲンゴロウ科 Dytiscidae

1) ケシゲンゴロウ *Hyphydrus japonicus* SHARP

2頭, 25. vi. 1988, 那須町高久甲; 多数, 15. x. 1988, 矢板市玉田; 多数, 15. x. 1988, 矢板市塩田; 1頭, 1. x. 1989, 那須町高久甲。

2) チビゲンゴロウ *Guignotus japonicus* (SHARP)

多数, 14. v. 1988, 塩原町片角; 1頭, 11. vi. 1988, 大田原市北金丸; 3頭, 25. vi. 1988, 那須町高久甲; 1頭, 15. x. 1988, 矢板市塩田; 2頭, 2. iv. 1989, 大田原市今泉・蛇尾川; 多数, 27. vii. 1989, 西那須野町千本松。

3) コシマチビゲンゴロウ *Potamonectes hostilis* (SHARP)

2頭, 11. vi. 1988, 大田原市今泉・蛇尾川; 1頭,

25. vi. 1988, 那須町高久甲・那珂川; 多数, 26. vi. 1988, 大田原市今泉・蛇尾川; 多数, 2. iv. 1989, 同地。

蛇尾川の湧水地帯ではゴマダラチビゲンゴロウとともに多産する。

4) チャイロシマチビゲンゴロウ *Potamonectes anchoralis* (SHARP)

4頭, 26. vi. 1988, 大田原市今泉・蛇尾川; 1頭, 2. iv. 1989, 同地。

前種と同じ環境に生息するが、個体数ははるかに少ない。(写真1)

5) ゴマダラチビゲンゴロウ *Neonectes natrix* (SHARP)

多数, 11. vi. 1988, 大田原市今泉・蛇尾川; 多数, 25. vi. 1988, 那須町高久甲・那珂川; 多数, 2. iv. 1989, 大田原市今泉・蛇尾川。

6) ツブゲンゴロウ *Laccophilus difficilis* SHARP

7頭, 25. vi. 1988, 那須町高久甲; 多数, 15. x. 1988, 矢板市玉田; 多数, 15. x. 1988, 矢板市塩田。

7) コウベツブゲンゴロウ *Laccophilus kobensis* SHARP

4頭, 25. vi. 1988, 那須町高久甲; 3頭, 1. x. 1989, 那須町高久甲。

8) ホソセスジゲンゴロウ *Copelatus weymarni* BALFOUR-BROWNE

多数, 14. v. 1988, 塩原町片角; 8頭, 26. vi. 1988, 同地。

9) ケベリマメゲンゴロウ *Platambus fimbriatus* (SHARP)

2頭, 29. vii. 1989, 塩原町宇都野・箒川。

10) モンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis* (SHARP)

10頭, 11. vi. 1988, 大田原市今泉・蛇尾川; 4頭, 12. vi. 1988, 塩原町湯元温泉・赤川; 4頭, 25.

vi. 1988, 那須町高久甲; 多数, 2. iv. 1989, 大田原市今泉・蛇尾川; 4頭, 29. vii. 1989, 塩原町宇都野・箒川.

11) クロマメゲンゴロウ *Agabus optatus* SHARP

3頭, 2. iv. 1989, 大田原市今泉・蛇尾川; 3頭, 2. iv. 1989, 西那須野町石森・蕪中川; 4頭, 20. v. 1989, 塩原町大沼; 1頭, 30. vii. 1989, 那須町豊原乙.

12) マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* SHARP

1頭, 14. v. 1988, 塩原町片角; 多数, 12. vi. 1988, 塩原町大沼; 4頭, 25. vi. 1988, 黒磯市沼原湿原; 3頭, 30. vii. 1989, 那須町豊原乙.

13) クロズマメゲンゴロウ *Agabus conspicuus* SHARP

1頭, 30. vii. 1989, 那須町豊原乙.

14) キベリクロヒメゲンゴロウ *Ilybius apicalis* SHARP

多数, 12. vi. 1988/20. v. 1989, 塩原町大沼.

15) ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* (STEPHENS)

2頭, 14. v. 1988, 塩原町片角; 1頭, 11. vi. 1988, 大田原市北金丸; 2頭, 12. vi. 1988, 塩原町大沼; 1頭, 26. vi. 1988, 大田原市今泉・蛇尾川; 多数, 15. x. 1988, 矢板市玉田; 多数, 15. x. 1988, 矢板市塩田; 2頭, 27. vii. 1989, 西那須野町千本松(灯火); 多数, 30. vii. 1989, 那須町豊原乙.

16) オオヒメゲンゴロウ *Rhantus erraticus* SHARP

1頭, 15. x. 1988, 矢板市玉田.

17) ハイロゲンゴロウ *Eretes sticticus* (LINNE)

1頭, 1. x. 1989, 那須町高久甲.

18) コシマゲンゴロウ *Hydaticus grammicus* (GERMAR)

2頭, 14. v. 1988, 塩原町片角; 1頭, 11. vi. 1988, 大田原市北金丸; 1頭, 12. vi. 1988, 塩原町大沼; 1頭, 25. vi. 1988, 那須町高久甲; 5頭, 3. viii. 1988, 西那須野町千本松(灯火); 多数, 15. x. 1988, 矢板市玉田; 多数, 15. x. 1988, 矢板市塩田.

19) マルガタゲンゴロウ *Graphoderus adamsi* (CLARK)

1頭, 15. x. 1988, 矢板市塩田.

IV. ミズスマシ科 Gyrinidae

1) オオミズスマシ *Dineutus orientalis* (MODEER)

多数, 1. x. 1989, 那須町高久甲.

2) オナガミズスマシ *Orectochilus regimbarti* SHARP

1頭, 25. vi. 1988, 那須町高久甲・那珂川.

3) ツマキレオナガミズスマシ *Orectochilus agilis* SHARP

10頭, 11. vi. 1988, 大田原市今泉・蛇尾川; 多数, 26. vi. 1988/17. vi. 1989, 同地.

近年, 全国的にほとんど記録が無いようである. しかし, 蛇尾川の湧水地帯では6月中旬に多産する. (写真2)



2

4) ミズスマシ *Gyrinus japonicus* SHARP

3頭, 30. vii. 1989, 那須町豊原乙.

5) コミズスマシ *Gyrinus curtus* MOTSCHULSKY

1頭, 15. x. 1988, 矢板市玉田; 3頭, 15. x. 1988, 矢板市塩田.

6) ヒメミズスマシ *Gyrinus gestroi* RÉGIMBART

4頭, 15. x. 1988, 矢板市玉田.

引用文献

- 1) 中根猛彦(1985). 北九州の昆虫, 32(2): 61~68
- 2) 中根猛彦(1987). 昆虫と自然, 22(11): 26~30.
- 3) 佐藤正孝(1985). 原色日本甲虫図鑑(II), pp. 183~203. 保育社, 大阪.

◇「求む! 日本の甲虫(I)」◇

Mr. Bartoloni dr. Roberto; Via Saretta, n. 2, 30027, S. Dona' di Piave (VE), ITALY (オサ, カミキリなど)

Mr. Posarini Umberto; V. le xx Settembre, 100 I-34126, Trieste, ITALY, (オサ, カミキリ, コガネムシなど)

Mr. Juan Vives Duran; San Antonio, 73, Tarrasa, Barcelona, SPAIN (ハンミョウ, オサ, カミキリ, ゴミ)

(紹介者, 阿部光典)

◇「ニュース」の原稿送付先◇

143 東京都大田区南馬込 1-38-6, 阿部光典  
Tel. 03-771-1065

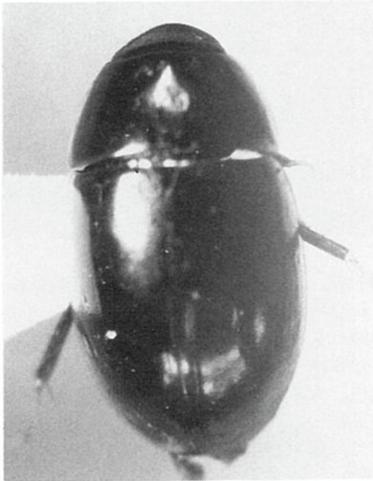
156 東京都世田谷区桜丘 1-1-1, 東京農大農学部  
昆虫学研究室 岡島秀治  
Tel. 03-420-2131 (内 350)

○九州新記録のオオヒラタガムシ

オオヒラタガムシの分布は、佐藤(1985)によると、本州(北東部)となっており、まれであるとされているが、中根猛彦博士からの私信によると、神戸あたりまで分布するようである。また、九州からの報告はなかったが、著者が鹿児島県より採集した標本を調べたところ、オオヒラタガムシが採集されていることが判明した。本種は、『鹿児島県の水生甲虫相』(松井他, 1988)に入るべきものであったが、うっかり見落としてしまっていたものである。本種の追加で、鹿児島県の水生ガムシ科は、13属34種となった。

オオヒラタガムシ *Enochrus haroldi* (SHARP)

5頭, 鹿児島県肝属郡高山町池之園, 2. xi. 1986, 著者採集



末筆ではあるが、ご教授くださった中根猛彦博士に感謝の意を表す。

引用文献

- 1) 松井英司・高井 泰・田辺 力(1988). 鹿児島県の水生甲虫相. SATSUMA, (100): 61-115.
- 2) 佐藤正孝(1985). 原色日本甲虫図鑑(II), 保育社 (熊本県本渡市, 松井英司)

○秋田県におけるクビナガヨツボシゴミムシの記録  
クビナガヨツボシゴミムシ *Tinoderus singularis* (BATES) は、本州・四国・九州に分布するが、本州北部における記録は少ないようである。筆者は、従来記録のなかった秋田県産の標本を保管しているのでここに記録しておく。

1頭, 秋田県秋田市豊岩, 10. vii. 1988, 大倉 慎採集

大倉氏によると、この個体はブラックライトに飛来したものとのことである。また、青森・岩手両県における記録を見ないので、これが今のところ最北の記録になると思われる。

末筆ながら、貴重な標本を恵与された大倉 慎氏

に厚くお礼申し上げる。(東京農大, 菊池秀樹)

○ヒゲトテントウダマシの石垣島における採集例  
ヒゲトテントウダマシ *Trochoideus desjardinsi* GUÉRIN-MÉNEVILLE は日本を始め東南アジアからアフリカ東部にまで生息している大変分布域の広い甲虫のようである。

日本からは小笠原と八重山諸島から記録されているが、採集例は多くないと思われるので筆者の石垣島での採集例を追加しておきたい。

1頭, 石垣島バンナ岳, 23. ii. 1989.

バンナスカイライン脇に伐採された広葉樹が倒されており、完全に乾燥していた分厚い樹皮を剥がしたところ樹皮の裏側で本種を発見した。本種は凶鑑などによると好蟻性とのものであるが、確かに同じ樹皮に多数のアリが見られた。

(東京都世田谷区, 沢田和宏)

○「脂の浮かない標本」作製法

採集した甲虫は、すぐその場で、酢酸エチールの入った殺虫管に入れるのが一般的であろう。ところが、こうして殺した虫は標本にすると、まもなく脂が体内からにじみ出してきて生時の面影をほとんど残さない汚ないものになることが多い。記載文には「黄色の紋」と書いてあるのに「茶色の紋」しか見当たらないこともある。特に食肉亜目の甲虫を研究している人は、こうした経験をたくさんもっていると思う。

脱脂法としては、①エーテルに浸す、②キシロールに浸す、③アセトンに浸す、④パーパー氏液(アルコール265 cc, 水215 cc, 酢酸エチール95 cc, ミンゼン<ベンジンではない>35 ccの混合液)に浸すなどがあり、誰もが苦労しているようである。

しかし脂の浮かない標本が作れば、このような苦労をしなくてもすむ。

小生はベルリン在住の友人から、つぎのような方法を教えてもらったのでお知らせする。

殺虫管にクエン酸とピロ亜硫酸ナトリウムを、それぞれひとつまみ入れ、水を一滴加える。採った虫はこれに入れて殺す。強烈な刺激臭があり、きわめて有毒なので顔の近くでフタを開けると危険である。死ぬまでの時間は酢酸エチールを使った場合よりも長くかかる。クエン酸の代りに塩酸を使うと短時間で死ぬが持ち歩くことを考えると危険が大きい。

有毒なガス(亜硫酸ガス)の入った殺虫管をフィールドで何回も開閉するのはコワイので、小生は帰宅してから、または宿泊先についてから薬品を投入するようにしている。

効果はたしかにあり、きれいな標本ができるが、すでに死んだ虫をこの殺虫管に入れてもだめである。あくまでも「生きた虫を亜硫酸ガスで殺す」ようにしないと、あとから脂がでてくる。

なぜ脂が出てこないのか、その化学的メカニズムについては、小生は知らない。

(東京都大田区, 阿部光典)

## ○ヨツボシシロオビゴマフカミキリ秋の記録

筆者は東京都高尾山で9月にヨツボシシロオビゴマフカミキリ *Mesosa (Mesosa) mediofasciata* BREUNING を採集したので報告する。

1♂, 東京都高尾山稲荷山ハイキングコース, 16. ix. 1989.

本種の高尾山での採集記録は、5月下旬をピークに4月末から6月までに限られているにもかかわらず、モミの枯枝を持ち帰って飼育すると、8月を中心に7月から9月にかけて羽脱することが知られていた。したがって野外でも秋に生活しているであろうことは当然予想されていたが、今まで記録がなかったものである。

当日は曇天で、稲荷山コースを登りながらモミの枯枝のルッキングおよびピーティングを行なったが、道路脇のモミの下枝(地上から1mぐらいでまったくの生枝)をピーティングしたところ、新鮮な個体が落ちたもの。その後生葉をピーティング、スイーピングしたが、結局この1頭のみになった。

なお、同日クビジロカミキリ1頭も同所でピーティングにより採集した。

(神奈川県逗子市, 露木繁雄)

## ○中国東北部千山のコムツキムシ2種

1. *Agrypnus argillaceus* (SOLSKY, 1871)

1頭, 13. vi. 1987, 千山, 李景科採集.

2. *Melanolus restrictus* CANDÈZE, 1865

1頭, 13. vi. 1987, 千山.

文末ではあるが、ご多忙中にもかかわらず標本を同定して下さった大平仁夫博士に心からお礼申しあげる。(中国遼寧省営口県農業技術推進センター, 李景科)

## ◇求む! 日本の甲虫(2)◇

Mr. Patrice Renaut; 3, ruelle de Plombières Hauteville, 21121 Fontaine Les Dijon, FRANCE. (オサその他)

Dr. Garagnani Paolo; Via Garzoni, 14 I-48012, Bagnacavallo (RA), ITALY. (オサ, ゴミ, カミキリ, その他雑甲虫)

Mr. Colombetta Giorgio; Via E. Elia n. 2, I-34135, Trieste, ITALY. (オサ, ゴミ, 雑甲虫)

上記の人たちが交換を希望しています。直接、手紙を出して下さい。(紹介者: 東京都大田区, 阿部光典, Terutsune Abe)

## 昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭W針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

振替 東京(3) 21129

電話 (03) 409-6401 (ムシは一番)

FAX (03) 409-6160

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社

## ◇報告◇

日本鞘翅学会の1989年採集談話会を、さる5月20日-21日に栃木県藤原町中三依の芝草山付近でおこないました。今回は宿舎の都合で、申し込み順20名に限定しましたが、参加希望者が多く、分宿、当日の参加者はあわせて32名となりました。21日は前夜の雨も朝のうちにやみ、午前中に晴れ、新緑のさわやかな山林で各自採集と懇親の一日を楽しみ、無事終了いたしました。中の沢、見通沢の入林と林道通行につきお世話になった今市営林署中三依担当区の各位、ならびに森林総合研究所の植原寛氏に厚く御礼申し上げます。(幹事)



参加者氏名

阿部光典, 早川浩之, 疋田直之, 市毛勝義, 和泉敦夫, 菊部治紀, 笠原須磨生, 菊地英樹, 小島弘昭, 小宮義璋, 久保田憲二, 倉田道夫, 黒佐和義, 黒沢良彦, 松本浩一, 宮川澄昭, 中村俊彦, 中西秀明, 新里達也, 大木裕, 大桃定洋, 小倉直樹, 岡島秀治, 奥島雄一, 齊田義典, 齊藤明子, 曾根信三郎, 田添京二, 露木繁雄, 上野俊一, 渡辺泰明, 渡弘(ABC順).

## 日本鞘翅学会

会費(一ケ年)5000円, 次号は1989年12月下旬

発行予定

発行人 上野俊一

発行所 日本鞘翅学会 東京都新宿区百人町3-23-1

国立科学博物館昆虫第1研究室

電話(364)2311, 振替東京8-401793

印刷所 (株)国際文献印刷社

## タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥5,000, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥1,700, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3個以下 ¥1,300, 4個以上 ¥850 (以下同様), 第二地帯 ¥1,500, ¥950, 第三地帯 ¥1,700, ¥1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥60)

## タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島2-21-25

電話(03)811-4547, 振替6-113479